

蓼科会会報

平成 22 年夏通信



(4月の御柱祭)

平成 22 年夏のご挨拶

「会長代行ご挨拶」

真崎 規江

現職の平林謙三会長が4月21日、肺炎のためにご逝去という事態に直面し言葉を失いました。ただただご冥福をお祈りするばかりでございます。取り敢えず会長のご遺志(平成22年正月通信)に沿って、次期会長選出まで代行の勤めを果たしたく思っております。人の道に外れそうなモラルの低下を救う規範が世界中で求められる時代になりました。昔習った孔子(紀元前

551年～同479年)や貝原益軒(1630年～1714年)を見直しましたが、74才で没した孔子は「70にして、心の欲する所に従えども、矩を越えず」(『論語』)と記しています。一方、貝原益軒は「人の身は百年を以て期(ご)とする。100を上寿、80を中寿、60を下寿とし、長生きすれば楽多く、益多く、知らざる事を知り、能せざる事をよくす、学問の長進、知識の明達を得るべし。この故に養生の術を行ひ、60以上の寿域に登るべし(『養生訓巻1総論』)」としています。

最近のNHK教育テレビ番組「ハーバード熱血教室」でサンデル教授が「正義」と題して公開講義をしています。政治哲学の

祖としてカント（1724年～1804年）に始まり先人の考え方を現実の問題（先住民族からの収奪、人身売買、卵子や精子売買、代理母など）に適用して人の道にかなう正義をどう導くかを学生と議論しながら進めています。

「僅かなお金に毒される事なく、他人を中傷する事なく、プライドを持って自由に、身分相応のささやかな喜びに浸る」といった生き方をするのが蓼科の住民ではないでしょうか。

「平林会長を偲んで」



平林謙三・蓼科会会長が2010年4月21日にお亡くなりになりました。享年81歳でした。平林会長は、永らく蓼科会幹事として会の運営・発展に尽力され、更に昨夏よりは、会長として、会の若返り等の諸問題に指導力を発揮されました。関谷元会長及び板倉元会長夫人より追悼のお言葉を頂きました。

「平林様追悼」

板倉峰子

新年会では、平林様のお隣の席を頂きました。楽しくご新築のお住まいのお話をさせて頂き、地図を広げて是非遊びにいらっしやい、とお誘いを頂きました。私の母校のお近くでしたのでそろそろお電話をして……等と思っておりましたところへ、

ご訃報を受け本当に驚きました。主人が蓼科会会長を務めておりました間、平林様に事務的なことは全て引き受けて頂きました。考えはあっても口下手で回りくどい話し方の主人でしたが、そこを何気なくカバーして処理して下さいました。本当に聡明で穏やかな方でした。

おかげで私共は、会の皆様と和やかな楽しいお付き合いが出来ましたことを感謝しております。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

「悼辞」

関谷 全

謙三さん、あなたは蓼科会の世代交代の任務のさなか、私共を残して、余りにも急に彼の地に往って仕舞いましたね。あなたが病軀を押して新年会の三笠会館を自らアレンジし、将来を語り合えたのは良かった。その帰路、足の悪い私の家内を東京駅まで送り届けてくれ、それが、あなた方兄妹の永遠の思い出の路となりました。

葬儀の折は、会員の皆様始め、三高・京大時代の学友、親子二代お世話になった日産化学(株)と特許情報部及び最後に社長を務めた環境技術研究所の社友、川崎で地域ボランティア活動を共にした皆様等、どの方も、人を喜ばす為に骨身を惜しまなかったあなたの生き様を想起し、涙して惜しんでくださいました。

早く妻を亡くし、3人の娘の進学を抱える大事な時期を、文字通り走り抜いた健康そのもののスポーツマンでした。それが10年程前、脈拍異常に端を発した心臓不調も、血管カテーテル手術で正常になり、サッカー

一もしていると聞き、安堵すると共に、現代医学の力強さに感銘したものです。しかし、3年前病院で肺炎と診断された時、感染症でもなく小康を得た為、蓼科までドライブして来て総会に出席した夜、症状が急変、諏訪中央病院に救急入院し、まる2日間人事不省でした。この病院は、医療レベルの高さで知られている通り、若い医師数人と看護師のグループのお一人お一人が、単独で私共夫婦に、本人の古くからの病歴を尋ねてメモし、川崎の病院とも連絡し、議論を重ね、肺に水が貯まった原因が肺にあるのではなく、心臓にあることを突き止め、処置をした結果、最悪の状態を脱出できたのでした。

翌朝早く、遠路を駆けつけた3人の娘達は、始めは手を握って、かすかな感触を確かめるのがやっとでしたが、ついに意識が戻り、山に見える病室で過ごせ満足そうでした。倒れた間の記憶がなく、早くから動き過ぎだと言われた程です。

この様に、諏訪の神々が与えて下さった延命3年目に、末娘夫婦と同居する家を東久留米市に新築、双子の男の子の孫まで授かり、人生最良の新年を迎えたかにみえた。その矢先、医療検診で見付かった結腸癌の除去手術は成功したのですが、直後に間質性肺炎を併発して、取り返しのつかぬ事となりました。悲しみの日々を経て、時がたつと共に、我々の心には相続く医術の狭間に開いたブラックホールに、あなたが吸い込まれて終わった様な印象が残りました。

科学者であったあなたの身体を原因究明に供する事を家族は了承し、何らかの手掛かりが見付かる事を期待し、あなたの症状が、この難病克服の礎の一つとなることを

信じています。

最期に、きっと今頃、あなたは、長いブラックホールを通り抜けて、天女が発する美しい神の光を感じて居るに違いないと念じつつ……。合掌

会議等の報告

1. 新年会の報告

日時：平成22年1月30日 12:00～

場所：銀座三笠会館



恒例の新年会が銀座の三笠会館で開かれました。美味しいフルコースのフランス料理を楽しみながら、昔の蓼科の四季折々の話に花が咲きました。若手会員2人を含む19名の出席で賑やかな団欒のひと時でした。

2. 水道審議会の報告

日時：平成22年3月2日 15:00～16:30

場所：茅野市役所 701、702 会議室

平成21年度茅野市上水道運営審議会が開催され蓼科会から関谷蓼科部会長が出席されました。関谷さんからの報告です。

柳平千代一茅野市長の挨拶に続き、全員の自己紹介を行った。ついで、会長に今井利弥氏、副会長に武居恵美子氏を選出した。

茅野市水道課より水道事業の概要について説明があった。それに依ると3つの上水道地区、すなわち、茅野市上水道、蓼科上水道(旧別荘)、白樺湖上水道に区分されており、給水人口、給水面積、水源と配水池の数、配水管の長さ、古い石綿セメント管の内訳と長さ、年間給水量、収益率、収支概要等々の詳しい資料が提示された。

審議会の位置付けは住民の声をくみ上げる為のものではなく、将来ビジョンを立てる為の政策会議である。施設増、値上げ等については市議会で諮られる。

平成20年度の経営状況が説明された。3地区別の上水道決算の報告があり、大きなホテルの少ない蓼科上水道に較べ、殆どが大口使用のホテルからなる白樺上水の使用量の減少傾向が示された。この地区の下水処理には金が掛かるが、白樺地区で値上げすると観光業にこたえるので、市の水道事業が保有している金を低金利で白樺地区に貸付け、両者の企業努力により下水処理事業を進めて行くとの報告がなされた。

3. 諏訪「御柱祭」ご報告



今年は7年に一度の御柱祭の年です。

戦時中の疎開時代を含め、長いこと蓼科に来ていのに、一度も参加したことも見たこともないお祭りでした。

今回行かないと次回は行けないかも知れないと思いましたが、どうしたら木落

し坂で見物できるのか、何時、どこに行けば良いのか、など、分からないことだらけ。その時、ふと目にとまった広告のバスツアーで参加することになりました。

朝、新宿のバスターミナルを出発し、快調に中央道を走り、茅野のヤマダ電機隣の駐車場で法被に着替え、4月にしては晴天で暖かい天気恵まれ、会場の栈敷席に向かいました。

なかなか時間通りにいかない木落場でラッキーにも蓼科地区が曳いている本宮四をみることができました。いつもテレビで見ている正面からではなく、横から見ると、メドコに何回も乗り降りする人、綱を曳く人、後ろで柱を押さえる綱があることなどが分かりました。

木落としを木やりや鼓笛隊が盛り上げに盛り上げ、最高潮に達したところで柱を止めてあった太い綱が一刀のもとに切れ、坂を勢いよく下りました。この後、宮川まで曳き、身を切るような冷たい水の中を、皆、胸まで浸かりながら、対岸に曳きおわる頃にはもう夕暮れでした。

残念ながら、御柱を立てるところは見られませんでした。秋の蓼科神社の御柱に参加して完結したいと思います。

皆様も是非、10月3日の蓼科神社の御柱祭にご参加下さい。

(稲留景子記)

平成22年度行事のお知らせ

1. 幹事会開催通知

通常総会に先立ち、恒例の幹事会を開催します。役員の方並びに会員の方も奮ってご参加下さい。

日時：8月7日（土）15:30より
場所：プール平消防会館 1階 日本間
議題：総会の進め方、新会長及び役員を選出、会の運営、行事等について

2. 通常総会開催通知

平成 22 年度の通常総会を下記の通り開催しますので、多数の会員の出席をお願いします。

日時：8月8日（日）

地元懇談会：10:00～

通常総会：11:00～

場所：アートランドホテル7階

レストラン「ラ・クレリエール」

議案：平成 21 年度業務報告及び
会計報告、会長及び役員選出。

3. 午餐会

総会に引き続き午餐会を催します。

日時：8月8日（日）

午前 12 時～13 時 30 分

場所：アートランドホテル7階

レストラン「ラ・クレリエール」

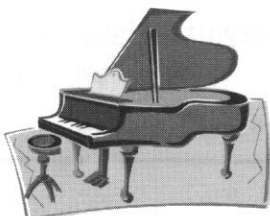
会費：3500 円（ドリンク 1 杯付き）

なお、総会及び午餐会に付き、同封の返信葉書で出欠を折り返しお知らせ下さい。

直前のキャンセル（8月6日以降）は、会費の負担をお願いする事になります。

親睦会

1. 音楽会



下記のご案内の通り、午餐会の後で音

楽会を開催いたしますので、みなさまお誘い合わせてご来場ください。

日時：平成 22 年 8 月 8 日（日）

14:00～15:30

場所：アートランドホテル7階

レストラン「ラ・クレリエール」

演奏曲目：ピアノトリオ メンデルスゾーン他

演奏者：佐久間 大和 ヴァイオリン

山岸 宜公 チェロ

田口 真理子 ピアノ

入場料：1,000 円

2. 旅行会



恒例の旅行会は昨年
から「東洋観光株式会
社」の企画に便乗させ
ていただいています。
今年は8月20日（金）

に「立山黒部ツアー」（A コース：黒部ダム・ダム湖遊覧、B コース：黒部ダム一室堂でのウォーキング）があります。プログラムの詳細、費用などは近く刊行される「蓼科高原からのたより Vol.11」に掲載される予定です。参加を希望される方は直接、プール平の同社事務所にお申し込み下さい。蓼科会としては参加される会員に1家族当りに小額の補助ができるよう検討しております。

また、10月8日（金）にも同社企画の「秋の上高地散策バスツアー」が予定されております。合わせてご検討ください。

連絡先：東洋観光（株）0266-67-2181

担当 平出（ヒライデ）さん

3. テニス大会



テニス大会は今年で14回目ですが、例年と同じ要領で下記の通り開催します。会員の皆様はもとより、お知り合いにもお呼びかけ頂き、大勢の方がご参加下さいますようお願いいたします。

日時：8月7日（土）10時～15時

集合時間：9時半

場所：東洋観光プール平 テニスコート

試合方式：ダブルス（組み合わせは当日決定）

会費：1,000円（昼食代、ビール、パーティ代、ボール代込み）

参加申し込み期限：8月1日（日）

連絡先： 矢野 喜雄

電話：0797-74-3583（宝塚）

0266-67-6460（蓼科）

（矢野 記）

4. ゴルフ大会



第7回蓼科会ライオンズゴルフ大会のご案内です。従来は蓼科会として会員親睦のゴルフ大会を開催してまいりましたが、今年は同日に東洋観光が別荘オーナー様向け懇親ゴルフ大会を予定しており、蓼科会と共同で開催してはとの話がありました。

幹事で相談し、共催で蓼科ライオンズゴルフ大会を開催することに致しました。

蓼科会会員相互及び別荘オーナーとの親睦を図りたく考えております。

多数の方々の参加をお待ちしております。

大会概要は下記。

日時：8月6日（金）

場所：蓼科高原カントリークラブ

時間：8:00 キャディーマスター室付近に集合

費用：プレー費 15,000円（キャディー、昼食、税込み）

参加費 4,000円（賞品、パーティー費等）

蓼科会として参加費の小額の補助を検討しております。また、特別賞にライオンズ賞（グロス110又はそれに一番近い方）を会より会員に提供します。

連絡先：西川 義紀

電話：03-3702-2413

090-9829-5718

メール：ynskw@a02.itscom.net

稲留 偉智：03-3314-2650

東洋観光 平出（ヒライデ）さん：

0266-67-2181

5. 夏の最後のお別れ会

日時：8月18日 14:00～

場所：プール平 銀のポスト

費用：実費

特にテーマは決めず、思い思いにおしゃべりを楽しんでください。

連絡先：稲留 0266-67-6676

080-5415-7000

◎ 平成22年度会費納入の御願い

同封の郵便振替用紙で納入の程、宜しく御願いたします。

会費：2000円

納入先：郵便振替 00120-5-133236

加入者名：蓼科会

会計担当：真崎

蓼科こぼれ話 3

内山と外山

真崎 規夫

古代、茅野市の区域はほとんどが牧であり、朝廷を通じて馬を全国に供給していた。都と東国をつなぐ古東山道は杖突峠から入り、北へ進んで大門峠へと抜けていた。湯川は大門峠への登り口で早くから開けていたようである。中世に入るとこの道は源氏道、鎌倉道、そして甲州道へと名を変え賑やかになっていった。湯川から大河原峠へ、また大石峠の道もできると大きな分岐点としての芹が沢(飛岡)、湯川、柏原の3集落は大きく発展を遂げたと云われる。武田信玄の時代には棒道が平行に開かれ、湯川砦が築かれ馬での運送業も増えた。近世に入ると人も増え、農法の進歩で農業も盛んになり、大量の肥料、飼料、燃料としての草木を調達する必要に迫られた。これを集落の居住地、耕地の外の山麓に求めたのである。茅野市の領域の山麓を区画して山の入会権制度が作られた。湯川山、芹が沢山、南大塩山などである。そしてその集落が単独で使用できる内山、共同で利用する外山とが区別された。それでも境界争いが絶えることがなく起ったという。

湯川山とは横岳、縞枯山、茶臼山の下滝の湯川と大石峠道間の地域、芹が沢山とは冷山、丸山、中山の下の大石峠道から洪の湯道間の区域といった具合である。その実際の地図は「江戸時代中期の道・汐・山図」として茅野市史中巻に付いている。現在の蓼科高原旧別荘地は湯川山の中であり、蓼科諏訪神社の山の神も地元の古い人は「湯川山の山の神」と呼ぶようである。

蓼科ビレッジや森永別荘地は芹が沢山の中にある。盛り上がっている地形でなくても平でも斜面でも山と決めた地域は日本人にとっては確かに山なのである。集落の住宅と農地以外が「山」である。ドイツ人のナウマンが山の神の「山」に考え込んだのも無理はない。「山の神」の山は「山」ではなく「森」というべきで、ヨーロッパでの「森の精霊」に近いと述べている。

蓼科神社と立科町

”蓼科”の名前のルーツをたどると元慶2年(878)の「蓼科の神、即ち蓼科神社の昇格にたどり着くことは前回に述べた。蓼科神社の里宮は立科町の古町(旧北佐久郡芦田町)にある。ビーナスラインのすずらん峠を過ぎ、女神湖を左に見て県道40号を行き、蓼科第二牧場、雨境峠を越えて30分ほど下ると左手に蓼科神社がある。参道を入るとすぐ右に高井稲荷神社、さらに石段を上がった平地に、左に天満宮、右に愛宕神社が祀られ、それぞれに鳥居があり神域も広い。ここからさらに傾斜のきつい苔むした石段を50段あまり登ると蓼科神社本殿があり、境内の左側には天照大神を祀る皇大神宮が立っている。参道は本殿まで一直線で、急な石段の上は茂った木々の緑に覆われた立派なお宮であった。

現在の本殿は徳川吉宗が享保元年(1716)に建替えたと伝えられるが、手入れが悪く痛みが激しい。拝殿のみ上がることが出来るが、危険を感じるほどである。中に描かれた絵も、上に掲げられた歌の文字も判らないほどである。ただ、ぶ分厚い屋根の上に、横に並べて掲げられた四つの御紋(中

の二つの菊の御紋、その両側の五三の桐の御紋)が輝いて見え、朝廷の勅許で建てられた格の高い神社であることを示している。

古くからこの蓼科神社をもち、蓼科山を崇めるのが現在の立科町である。三村合併のとき(1955)、申請の不手際と不運が重なって「蓼科村」ではなく「立科町」となってしまった。しかし蓼科区は前からあったので、蓼科高校もできた。

一方、諏訪側は朝廷に刃向って蓼科神に敗れ「二度と刃向わない」として逃げ込んだのが諏訪神の地である。だから諏訪側の人はずっと「蓼科」という言葉は使わなかった。しかし、観光産業重視の時代になると、蓼科高原、蓼科温泉、蓼科区などが使われ始め、駅名まで茅野駅から蓼科駅と替えようとした人も現れたという。諏訪神を祀った蓼科諏訪神社まで出現してしまった。昔は大きな壁であった蓼科山も簡単に越えられ、裏も表もない時代なのに、変な気がする。

参考書

- 義江彰夫「神仏習合」岩波新書(2005)
- 安丸良夫「神々の明治維新一神仏分離と廃仏毀釈」(2006)
- 南方熊楠「神社合祀問題関係書簡」、「神社合併反対意見(付録)」
- 南方熊楠全集7 平凡社(1971)
- 鶴見和子「南方熊楠一地球志向の比較学一」講談社学術文庫(1981)
- 村上重良「日本宗教事典」講談社学術文庫(2000)
- ネリー・ナウマン「山の神」(野村伸一、檜枝陽一郎 訳)言叢社(1994)
- 吉野裕子「山の神」講談社学術文庫(2008)

とよた時「イラストふるさとの神々なんでも事典」富民協会(1990)

戸部民夫「頼れる神様大事典」PHP研究所(2007)

大島暁雄、佐藤良博、松崎憲三、宮内正勝、宮田登「民俗探訪事典」

山川出版社(1983)

茅野市「茅野市史」上巻(1986)、中巻(1987)、下巻(1988)

湯川むら編集委員会「湯川むら」茅野市北山湯川区(1976)

芹が沢区編集委員会「芹が沢誌」茅野市北山芹が沢区(1990)

堀内清七「笹原のあゆみ」茅野市湖東区笹原公民館(1981)

長野県神社庁「信州の神事」銀河書房(1990)

岡田米夫「神社」東京堂出版 日本史小百科(1993)

宮沢和穂「天武持統と信濃の古代史」国書刊行会(2003)

編集後記

今年は7年に一度の諏訪大社御柱の年。蓼科の住民として一度は見てみよう、息子夫婦、孫達と共に里曳きを見に行きました。神職を先頭に長い行列の後、巨大な御柱が曳かれて来ました。地元諏訪地区は、精密工場等が、海外などに移転してしまい、かつての元気さがありません。御柱祭りで一時的にでも元気が出たのであれば、メダタシメダタシ。蓼科会の夏の行事も、老若男女の区別なく、元気で楽しく参加しましょう。若は、特にウエルカム。

(稲留偉智 記)